

調査から見えてきた 福祉連絡会の現状

昨年12月に実施した「小地域福祉活動アンケート」では、157自治会中128自治会から回答があり、回収率は82%でした。ここでいくつかの設問を紹介します。

(問) 福祉連絡会を設置していますか(回答数128)

①設置している98(77%) ②組織はないが連携して取組んでいる11(8%) ③設置していない19(15%)

(問) 自治会長や民生委員、福祉委員等が連携を図り活動していますか(回答数118)

①図れている70(59%) ②まあ図れている45(38%) ③図れていない3(3%)

(問) 課題や活動等会議を行っていますか(回答数110)

①行っている25(23%) ②まああ行っている49(44%) ③行っていない36(33%)

また、課題等は左記のようなご意見をいただきました。
調査結果から、7割以上の自治会で福祉連絡会の設置が進

アンケート自由記述(課題等)

抜粋

- 福祉委員の担い手(福祉委員が毎年交代)
- 福祉連絡会の必要性(わざわざ設置する必要がない、設置の気運が生じてこない)
- 要援護者の把握や支援の壁(個人情報保護法やプライバシーの問題)
- 話し合いの場の充実(福祉課題の共有)
- 民生委員児童委員等との連携(ふれあい喫茶のための福祉委員ではない)
- 活動リーダーのあり方(その時のリーダーの考えで活動に温度差)
- 世代を越えた交流の場づくり(だれもが参加できる取組みや体制づくり)
- 少子高齢化と世帯数減少(活動の縮小、継続、担い手の問題)
- 活動拠点場所の確保(公民館のない自治会では活動ができない)
- 男性や若年層等、無関心な人への参加促進(福祉への関心をどうもってもらうのか)
- 新規加入者やアパート住民との交流(コミュニケーションの図り方)
- 災害時での対応(防災への意識)等

住民福祉座談会で 住民同士の協議の場を

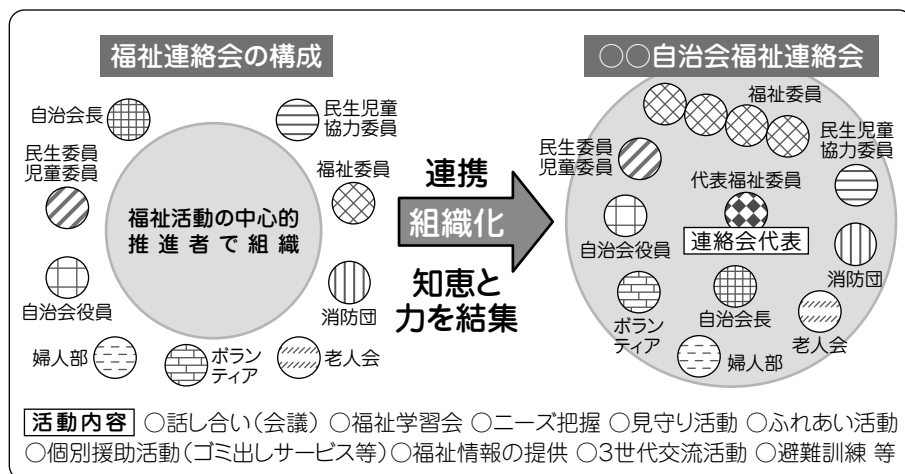
んでいることが分かりましたが、①自治会内の活動者や各種団体が連携を図り、②地域の福祉課題について協議し、③活動できる組織をつくるのが今後の課題です。

小地域福祉活動は、地域の問題を住民同士が話し合う場づくりから始まります。

まずは、住民福祉座談会を通して、日常の生活不安や生活課



地域の生活課題を話し合います(西深福祉連絡会での福祉座談会)



題・福祉課題を吸い上げられる組織づくりに向けた実質的な協議をしましょう。

住民福祉座談会には、本会の役職員も参加し、住民といっしょになって組織づくりを進めていきます。

(本部・二宮支部 波多野好則)

読者の
感想より

いきいきライフが身近な人だったので、久しぶりに写真を見させてもらい、うれしかったです。若い頃の出会いを思い出しました。(山崎町 女性)